



# こんにちは 府會議員 さこ祐仁 です

2007年10月14日発行 No.47  
日本共産党北地区委員会  
432-3261  
上京生活相談所813-2117

## 10・10市民のつどいは4500人の参加で大きく成功しました！ 京都のアンフェアなくし、市民の切実な願い実現のために全力でがんばります。

京都府議会では9月19日から10月5日までの会期で9月定例議会がおこなわれました。

今議会は、参議院選挙での自公政権の惨敗、安倍首相の政権投げやりと福田内閣の発足など、「構造改革」路線の破綻と、それに対する国民的怒りの中でおこなわれました。わが党議員団は、山田府政による「構造改革」路線の京都への持ち込みによる弱者切捨てを具体的に示し、08年4月実施予定の高齢者医療費負担増問題をはじめ、ストップ貧困をかかげて、府民の暮らしと営業を守る立場から積極的に論戦を行いました。

私が実感したのは、参議院選挙の結果と、その根底にある貧困と格差の拡がりにより、この9月議会は大きな変化が現れたことです。

一つ目は、構造改革路線の破綻がはっきりとしてきたことです。わが党議員が代表質問で、深刻になっている府民の暮らしを示し「構造改革」路線を根本から見直し、貧困をただす府政運営への転換が必要だ」と求めたのに対し、山田知事は「地域間の格差が生じた」として、乳幼児医療費助成の拡充、障害者自立支援法による負担軽減措置、企業誘致条例の

改正や中小企業・伝統産業支援、医師確保対策などに「全力を挙げて取り組んできた」と述べました。

これらの施策は、まさに日本共産党が府民のみならずと力をあわせて要求し実現したもののばかりです。山田知事がこうした答弁をせざるを得なくなったことは、これまでの国の先取りとも言える「受益と負担」「自己責任」「自律自助」を基本とした、新自由主義に基づく構造改革路線による府政運営のあり方が破綻をしたことを示しているものです。私も、綾部市の地域経済対策本部による「事業所得実態調査」の例などをあげ、新しく発足した「北部産業技術支援センター」の体制強化などを求めました。

いま各地の土木関係事業者から「公共事業の激減で、営業が成り立たなくなってきた」と、廃業が増えている。「このままでは災害時の対応ができなくなる」などの声があり、今後この声にこたえて経済対策として、地元業者・中小企業支援が必要となっています。

こうした、府民の暮らしや営業に対する悲鳴は、「商店街はシャッター通り」「京都府内の小規模事業者は、とても好景気が実感できないどころか厳しい状況」などと自民党や保守会派議員からも相次いで出されました。さらに、山間部の限界集落の例を挙げ「行政効率ではなく、行政のトップとして人がそこに住む限り人々の生活を支援していく義務がある」と府政運営のあり方に多くの意見が出されました。

一方で、民主党は「生活者第一」といいながら、本会議質問では、府民の切実な暮らしの問題には全くふれずに、しかも「府立高校や府立看護学校の授業料値上げ」議案に賛成したことは「生活者第一」の看板が泣きます。

10.10市民のつどいで、参加者から激励の拍手と大きな声援を受ける中村和雄さん。

二つ目には、府民の運動と議会で

の論戦が政治を大きく動かしていること。京都府老人医療費助成制度（65歳から69歳までの窓口3割負担を1割に抑えている府の独自制度「マル老」）を2割に縮小する案が議会で報告されました。議員団は、議会中に緊急懇談会を開催するとともに議会で縮小を許さない立場から厳しく追及する中、知事は国の高齢者医療費負担増の凍結の動きをうけ、「国の今後の推移を見守る」といわざるを得なくなりました。また生活保護について、知事は「最近国の動きは、財政的な背景が多い」と述べ、府として辞退届けの強要をしない旨の「指示文書」を実施機関に送付しました。さらに全ての小・中学校を1学級30人程度にできるように、検討する方向を示しました。

京都府道路交通規則の一部改正がおこなわれたことにより、これまで駐車規制除外の対象であった下肢不自由3級の2以下や脳病変による運動機能障害の移動機能級の障害のある方が、対象から外れることとなり、障害者団体などから、対象となるよう強く求められる中、警察本部も「今後の推移を見ながら対応したい」と応えざるを得なくなりました。これらは一致する要求に基づく運動と、議会で論戦により政治が動くことを証明しています。

構造改革路線の破綻が明確になったことで、日本共産党府会議員団は、この秋国民健康保険や高齢者医療費負担増をはじめとした医療、社会保障を守る運動を論戦で大攻勢をかけることも迫った京都市長選挙で中村和雄さんの勝利のために全力を尽くします。

今議会では、沖繩戦の「集団自決」に対し、軍の命令・強制・誘導等の表現が検定により削除された問題について、2件の意見書が公明党が賛成したことによって可決されました。民主党提案の「沖繩戦に関する教科書検定の

撤回を求める意見書」は、検定意見の撤回と軍の強制記述の回復を求めるものであり、日本共産党も賛成し成立しました。しかし、対案として出された自民党案は「集団自決」について「日本軍の命令があつたのか明らかではない」とする意見と「軍の関与なしに起こりえなかつたとする意見」があり、今後の調査が必要とするものでした。日本共産党府会議員団は、この自民党案は、9月28日に11万人が集まり、沖繩県民大会で高橋生の発言した、どんなに醜くても「歴史の真実を知り、学び、伝えたい」の思い、さらに大会決議から大きく逸脱し、「歴史の真実と沖繩の心にそむくものだ」と厳しく批判しました。

### つれづれ ブログ

10月7日は区民運動会が上京区各学区でおこなわれ、くらの共子市会議員と訪問しました。各学区で取り組みの内容がずいぶん違っていましたが、それぞれに参加して工夫されていることがよくわかりました。私の室町学区でもおこなわれました。私も町内役員として、朝早くからテント出しなど、町内の方々と準備で動きまわりました。各学区を訪問したので、競技の結果がはっきりわかりませんが、つれづれからのメールで、子どもやつれづれあいが活躍して小中リレーで2位、玉送りでも2位と優秀な成績を上げていました。子どもの足の速さは誰の血筋かと町内で噂になったようでした。夜は町内会主催で親睦会を行ない、私も学童で鍛えた？焼そばを披露してみなさんにお褒めのお言葉をいただきました。